

平成29年度 さいたま市民意識調査 (概要版)

<調査項目>

在住者意識調査		在勤者意識調査
①地域での生活	④市政との関わり	①さいたま市のイメージ
②地域のイメージ	⑤市政への満足度・重視度	②市内での活動
③さいたま市のイメージ	⑥今の地域を選んだ理由	

<調査のあらまし>

	在住者意識調査	在勤者意識調査
調査地域	さいたま市全域	さいたま市全域の事業所
調査対象	さいたま市在住の満18歳以上の男女	さいたま市外からさいたま市内に通勤する満18歳以上の男女
調査対象数	5,000人	2,000人
抽出法	住民基本台帳に基づく層化多段無作為抽出	市内の事業所を無作為に抽出し、事業所を通じて個人への調査を依頼
調査方法	郵送配布・郵送回収法	
調査期間	平成29年6月1日～6月19日	
回収結果	有効回収数 2,508	有効回収数 709

<概要版の見方>

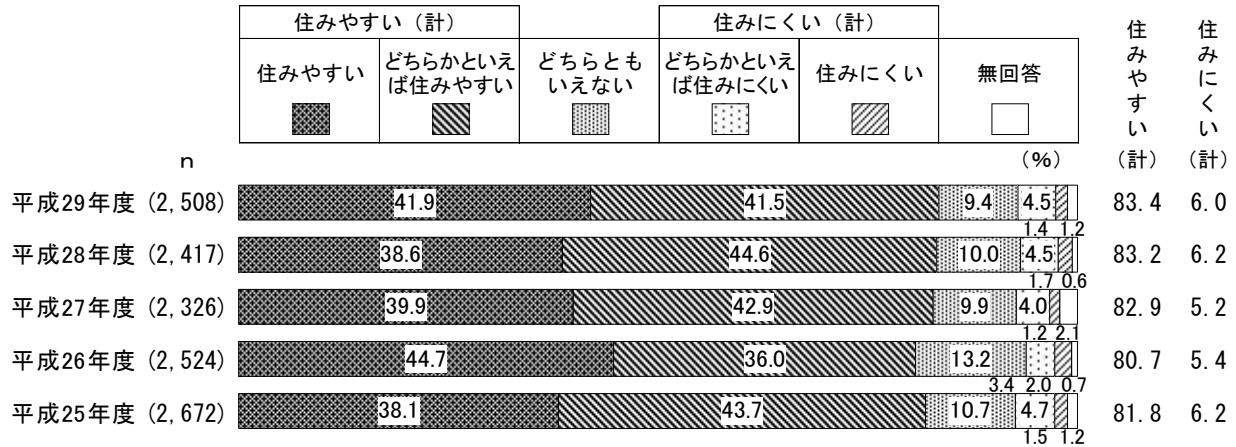
- 図中の「n」は、各設問の回答者数を示します。
- 調査結果の比率は、nを基数として百分率の小数第2位を四捨五入して算出しました。そのため、すべての比率を合計したときに100.0%にならないなど、各項目の比率と、その合計が一致しないことがあります。
- 図中で、在住者と在勤者の比較をしている場合は、在住者の順位を基準に示しています。
- 図や文章中の選択肢の表記は、場合によっては語句を一部簡略化して示しています。



★さいたま市は「住みやすいまち」ですか。

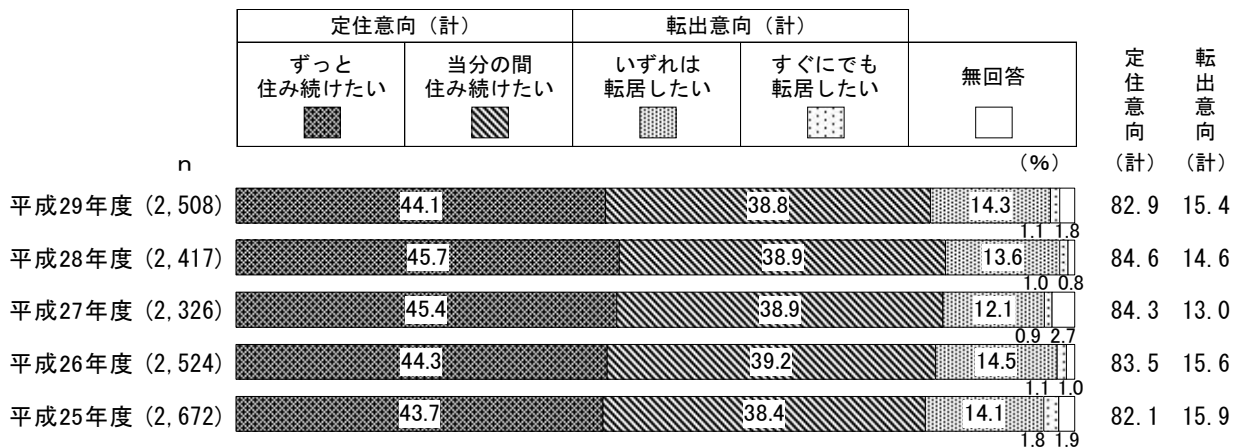
■住みやすい人は83.4%【在住者調査】

在住者が感じる地域の住み心地は、「住みやすい」と「どちらかといえば住みやすい」を合わせた『住みやすい(計)』が83.4%と、8割超の高い水準で推移している。



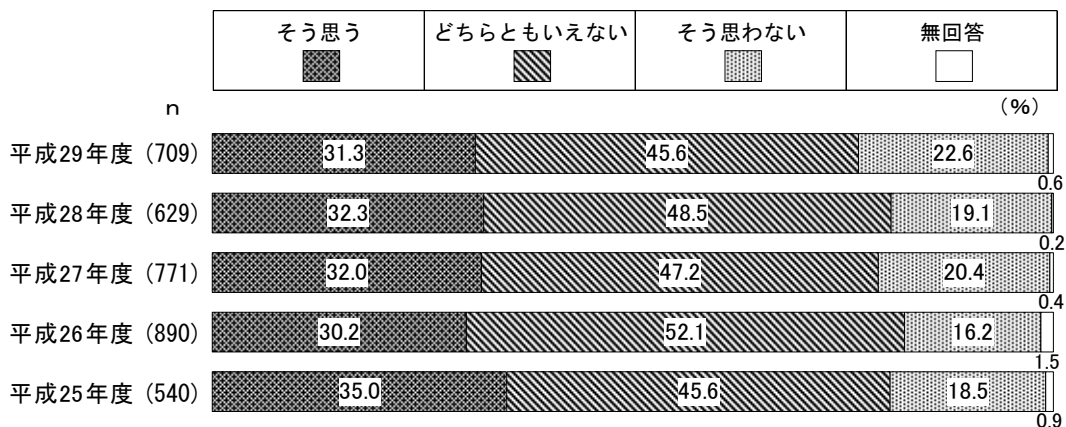
■住み続けたい人は82.9%【在住者調査】

今の地域に「ずっと住み続けたい」と「当分の間住み続けたい」を合わせた在住者の『定住意向(計)』は82.9%と、8割超の高い水準で推移している。



■住んでみたい人は31.3%【在勤者調査】

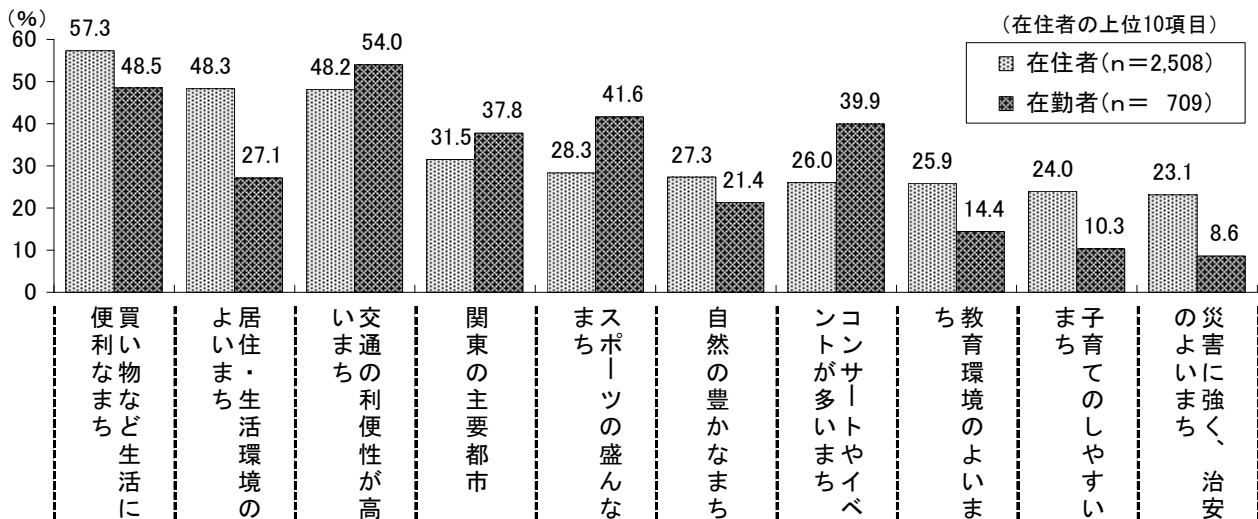
在勤者に、さいたま市は住んでみたくなるような都市だと思うかを聞いたところ、「そう思う」は31.3%と、3割台で推移している。



★さいたま市にどのようなイメージを持っていますか。

■在住者・在勤者ともに5割前後が「買い物など生活に便利なまち」、「交通の利便性が高いまち」と評価

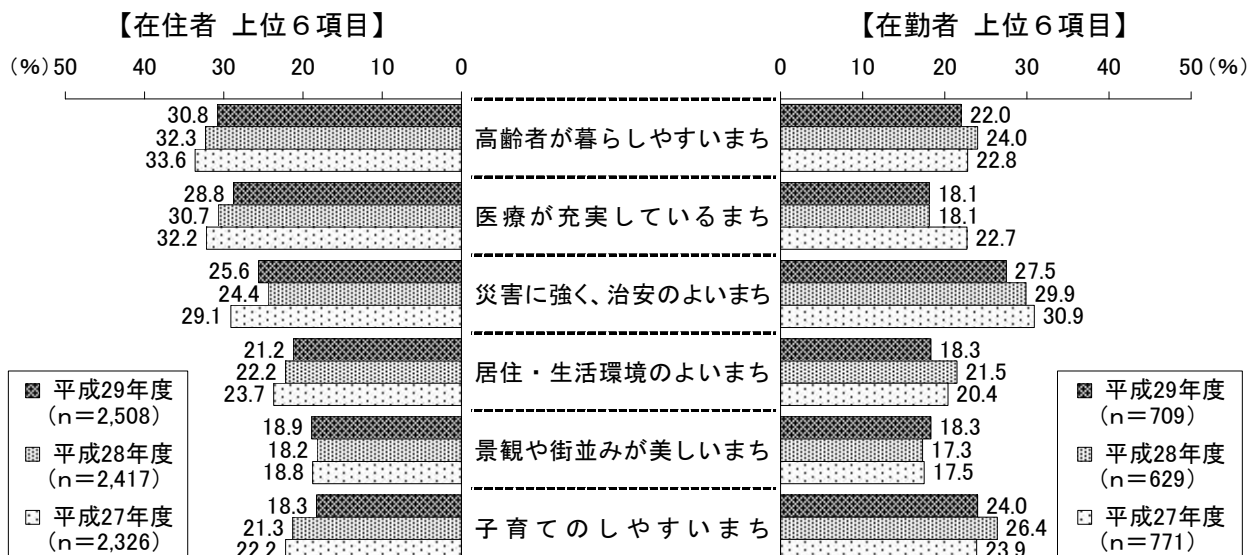
さいたま市のイメージについて聞いたところ、在住者・在勤者ともに「買い物など生活に便利なまち」と「交通の利便性が高いまち」が半数前後を占めている。また、「居住・生活環境のよいまち」と「子育てのしやすいまち」、「災害に強く、治安のよいまち」などは、在住者が在勤者を大きく上回り、「スポーツの盛んなまち」と「コンサートやイベントが多いまち」は、在勤者が在住者を大きく上回った。



★さいたま市が、今後どのようなになればよいですか。

■在住者は「高齢者が暮らしやすいまち」、在勤者は「災害に強く、治安のよいまち」が1位

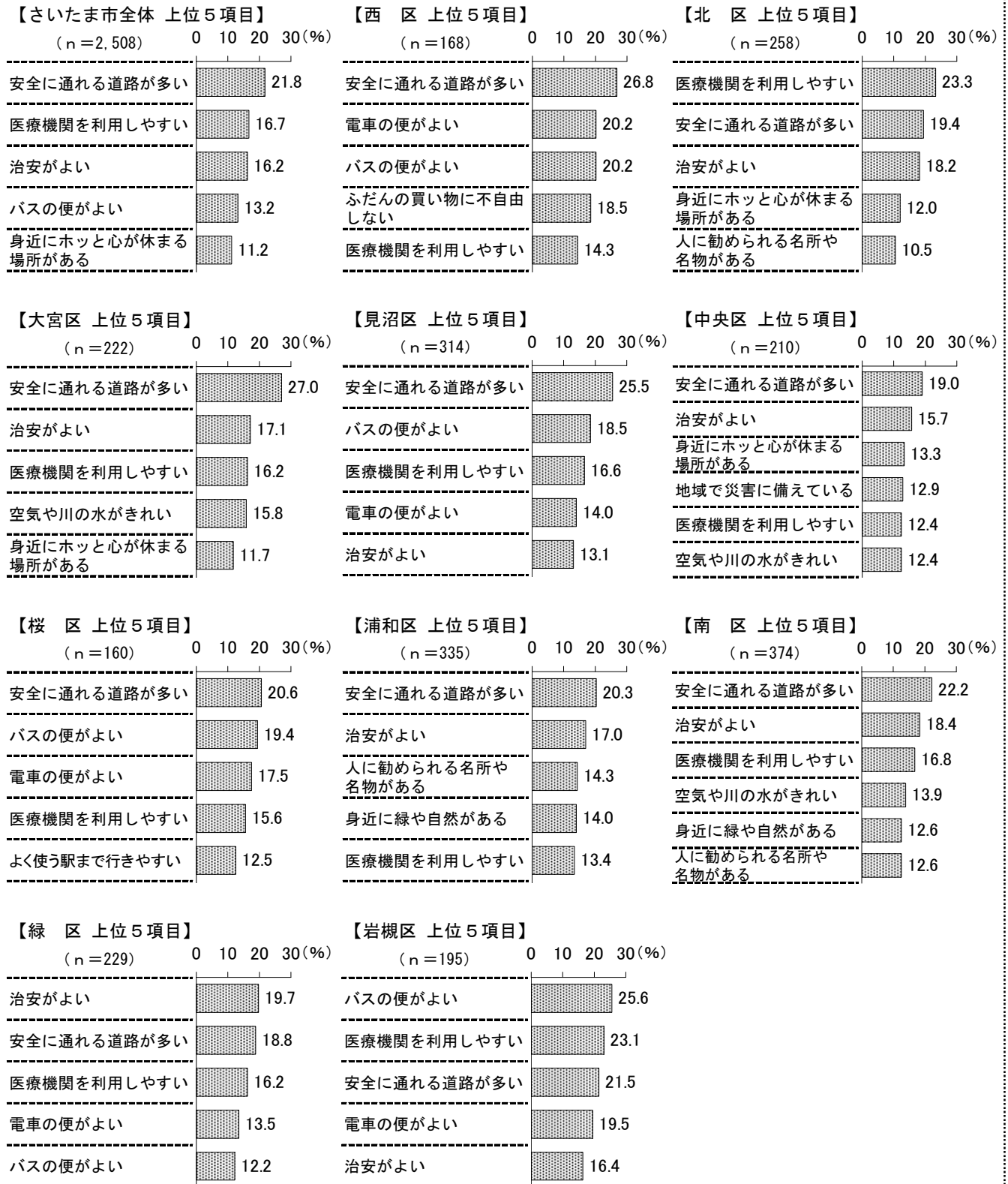
さいたま市の今後の発展の方向性について聞いたところ、在住者と在勤者で順位に違いはあるものの、上位6項目は共通している。その中で、在住者は「高齢者が暮らしやすいまち」が、在勤者は「災害に強く、治安のよいまち」が、それぞれ1位となった。



★お住まいの「地域」が、今後どのようになればよいですか。

■「安全に通れる道路が多い」が、10区中7区で1位

お住まいの「地域」の発展の方向性を3つまで聞いたところ、「安全に通れる道路が多い」が10区中7区で1位となり、それ以外の北区と緑区、岩槻区でも3位までに入った。また、西区と見沼区、桜区、緑区、岩槻区（市内を南北に走るJR沿線以外の区）では、「電車の便がよい」が上位5項目に入った。

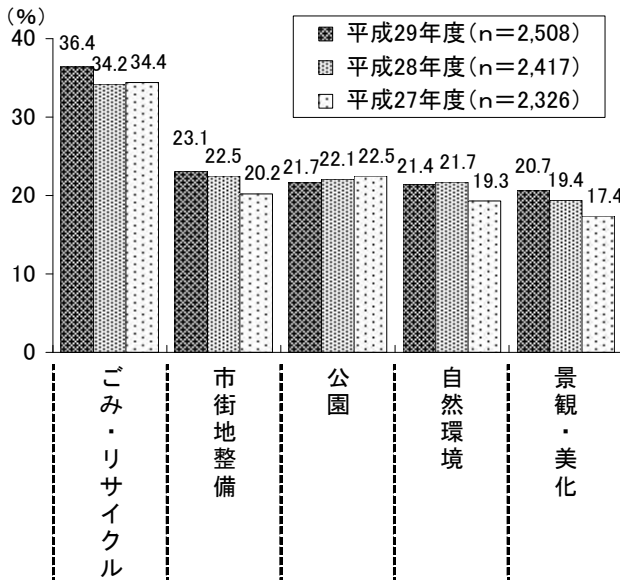


★「さいたま市」が行っている施策や事業の満足度・不満度(上位5項目)

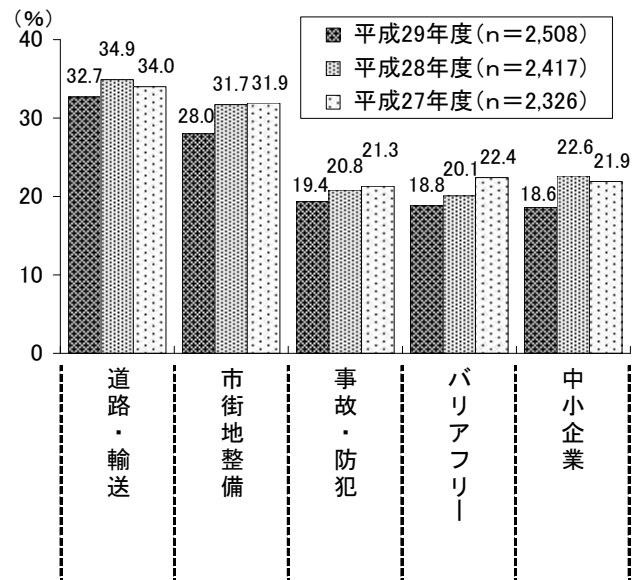
■満足度1位は「ごみ・リサイクル」、不満度1位は「道路・輸送」

各施策や事業の現状の満足度を聞いたところ、満足度は、「ごみ・リサイクル」(36.4%)、不満度は、「道路・輸送」(32.7%)が最も高かった。「市街地整備」は満足度、不満度ともに2位となった。

【満足度 上位5項目】



【不満度 上位5項目】

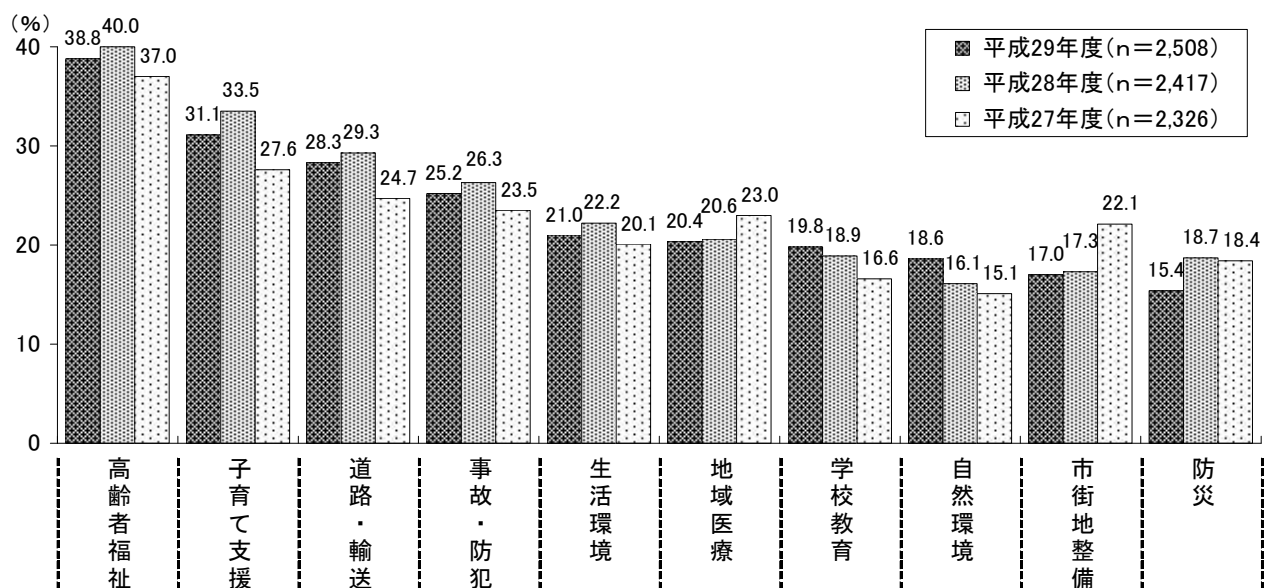


★今後、特に重視する施策や事業(上位10項目)

■「高齢者福祉」が今年度も1位

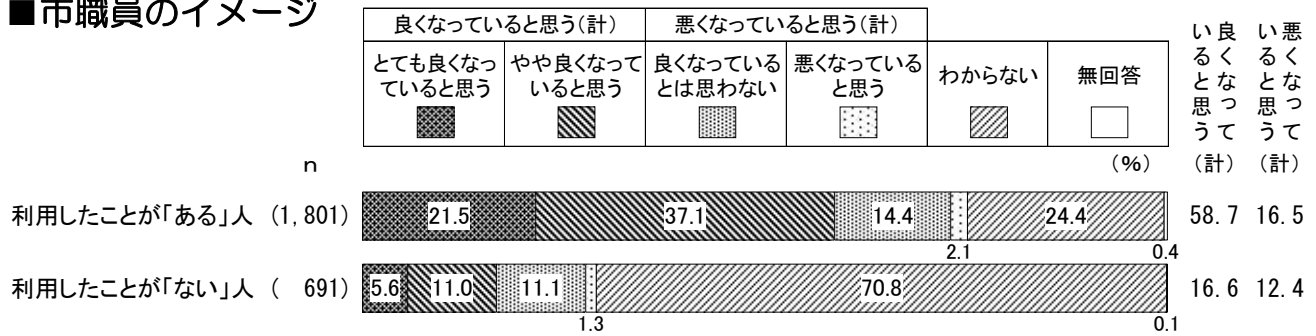
今後、特に重視する施策や事業を5つまで聞いたところ、「高齢者福祉」(38.8%)が4割近くで最も高く、次いで「子育て支援」(31.1%)、「道路・輸送」(28.3%)の順であった。

過去2年間と比較すると、「学校教育」と「自然環境」は増加傾向にある。

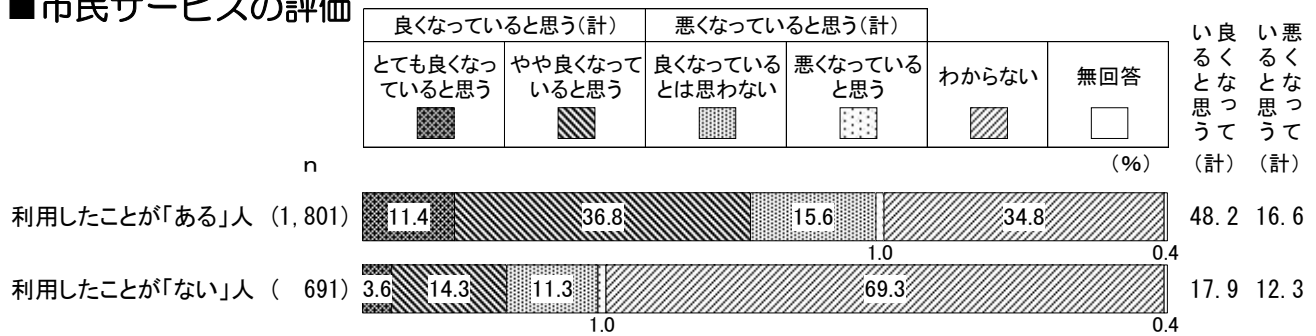


★市役所の利用実態別「市職員のイメージ」及び「市民サービスの評価」

■市職員のイメージ



■市民サービスの評価

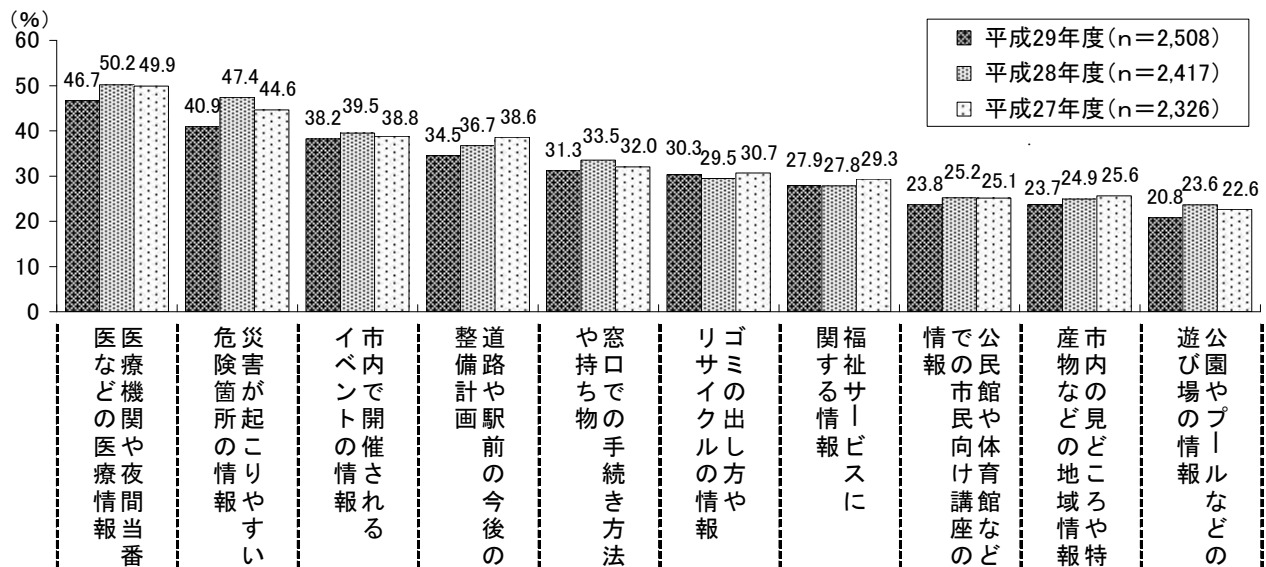


この1年以内に市・区役所を利用したり、電話問い合わせを利用したりしたことが「ある」人のうち、市職員のイメージが『良くなっている(計)』(58.7%)と感じている人は6割近く、市民サービスが『良くなっている(計)』(48.2%)と感じている人は5割近くであった。一方、利用したことが「ない」人は、どちらの項目も「わからない」が7割前後を占めている。

★市役所からの情報で、特に知りたいものは何ですか。

■「医療機関や夜間当番医などの医療情報」が5割近く

市役所からの情報で特に知りたいものを聞いたところ、「医療機関や夜間当番医などの医療情報」(46.7%)が5割近くで最も高く、次いで「災害が起こりやすい危険箇所の情報」(40.9%)、「市内で開催されるイベントの情報」(38.2%)であった。これらの上位3項目の順位に変動はみられない。

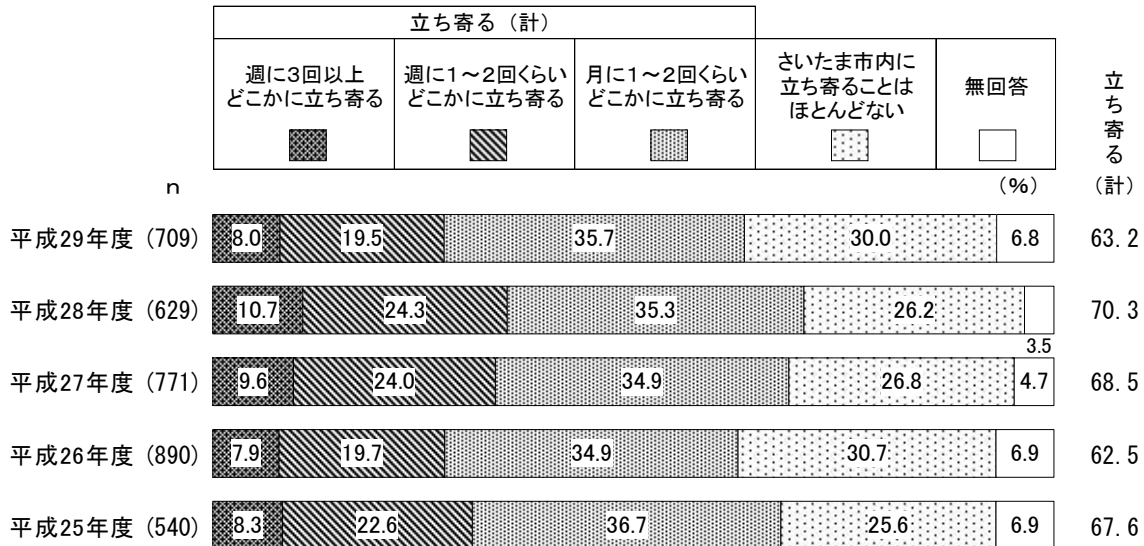


★在勤者に、仕事のあとのさいたま市内での活動について聞きました。

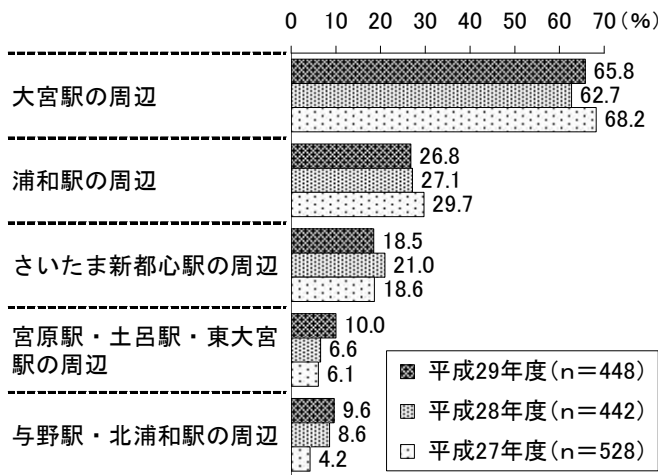
■さいたま市内に『立ち寄る（計）』人は63.2%

仕事のあと、食事や買い物などでさいたま市内のどこかに立ち寄る頻度は、「週に3回以上どこかに立ち寄る」（8.0%）と「週に1～2回くらいどこかに立ち寄る」（19.5%）、「月に1～2回くらいどこかに立ち寄る」（35.7%）の3つを合わせた『立ち寄る（計）』は63.2%であった。

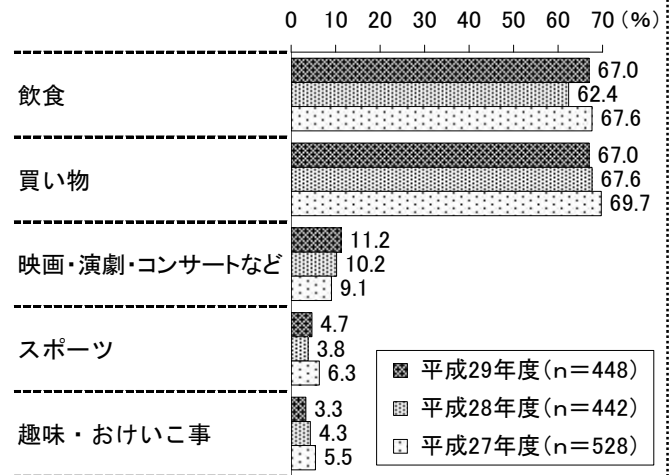
過去4年間に引き続き、『立ち寄る（計）』は、おおむね6割から7割で推移している。



■立ち寄る場所は「大宮駅の周辺」



■立ち寄る目的は「飲食」、「買い物」



在勤者が仕事のあと立ち寄る場所は「大宮駅の周辺」（65.8%）が6割半ばで最も高く、次いで「浦和駅の周辺」（26.8%）、「さいたま新都心駅の周辺」（18.5%）であった。

立ち寄る目的は、「飲食」と「買い物」がともに67.0%で最も高い。

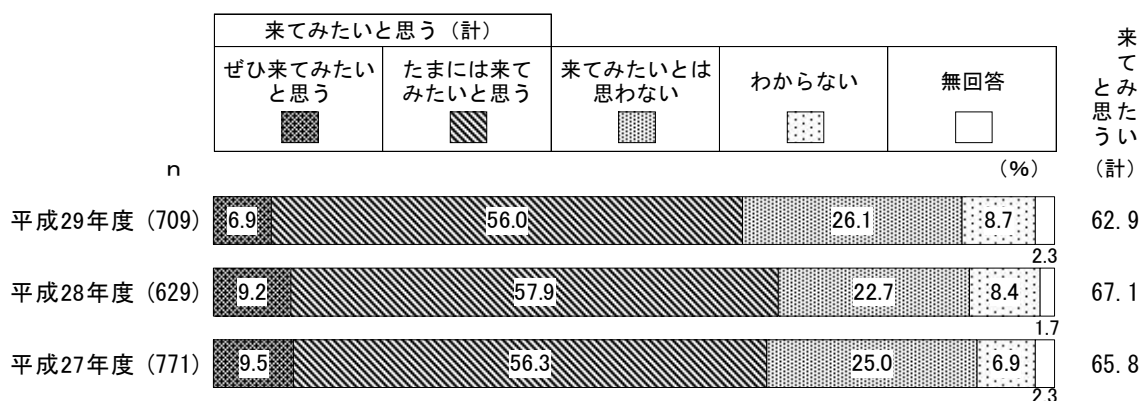
場所、目的とも過去2年間に引き続き、おおむね同じ傾向になっている。

★在勤者に、仕事が休みの日にさいたま市に来てみたいと思うか聞きました。

■さいたま市に『来てみたいと思う（計）』は62.9%

在勤者が、仕事が休みの日に買い物や遊びでさいたま市に来てみたいと思うかについては、「ぜひ来てみたいと思う」（6.9%）と「たまには来てみたいと思う」（56.0%）を合わせた『来てみたいと思う（計）』は62.9%であった。

過去2年間に引き続き、『来てみたいと思う（計）』は6割台で推移している。



平成29年度 さいたま市民意識調査（概要版）

発行 さいたま市 市長公室 広聴課
〒330-9588

さいたま市浦和区常盤 6-4-4

電話 048(829)1931（直通）

調査実施 株式会社エスピー研
〒102-0072

東京都千代田区飯田橋 3-11-20

電話 03(3239)0071（代表）

【このさいたま市民意識調査業務の委託に要する経費は、144万円です。】